

平成30年度  
企画展

# 縄文時代！

縄文時代！縄文時代！縄文時代！

栗原新道より望む茂呂遺跡 明治大学博物館所蔵



赤塚城址貝塚  
二ホンイヌ牙玉 立正大学博物館所蔵  
 小豆沢貝塚出土  
堀之内式注口土器 東京国立博物館所蔵

石神井川より望む茂呂遺跡 明治大学博物館所蔵



平成31年  
**1月19日(土)～3月24日(日)**  
 月曜休館(月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館)  
**入館無料**  
 午前9時30分～午後5時 (入館は午後4時30分まで)

**縄文人なりきりコーナー** 展示中の土偶や土器(複製)と一緒に記念撮影をしよう!  
 時間 開館時間中 場所 1階エントランス

**講演会①「茂呂型ナイフ形石器の作り方」**  
 日時 平成31年2月9日(土) 13時30分～15時30分  
 講師 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団  
 東京都埋蔵文化財センター  
 調査研究員 塚田清啓氏  
 会場 資料館2階講義室 定員 80名

**現地見学会「茂呂遺跡の発掘調査と意義」**  
 ※事前申込制  
 日時 平成31年2月23日(土) 13時～14時  
 講師 当館学芸員  
 会場 都立城北中央公園 史跡 茂呂遺跡内

**講演会②「縄文のなりわい 貝塚と塩作り」**  
 日時 平成31年3月10日(日) 13時30分～15時30分  
 講師 明治大学 教授 阿部芳郎氏  
 会場 資料館2階講義室 定員 100名

**展示解説**  
 日時 平成31年1月26日(土)  
 2月16日(土)  
 3月23日(土)  
 いずれも13時30分～14時  
 講師 当館学芸員

**板橋区立郷土資料館** 〒175-0092 東京都板橋区赤塚5-35-25  
 Tel 03-5998-0081  
 Fax 03-5998-0083  
 HPアドレス <http://itabashi-kyoudo-museum.jp>

**交通**  
 ■ 都営三田線西高島平駅/徒歩13分  
 ■ 東武東上線下赤塚駅・成増駅/徒歩23分  
 ■ 東武東上線成増駅下車/北口2番バス乗り場から国際興業バス(区立美術館経由高島平操車場行き)にて区立美術館下車/徒歩2分  
 ■ 都営三田線高島平駅下車/西口2番バス乗り場から国際興業バス(区立美術館経由成増駅北口行き)にて区立美術館下車/徒歩2分  
 ■ タクシーをご利用の場合は、都営三田線高島平駅西口または東武東上線成増駅北口から約5分

■ 共 催：公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター  
 ■ 特別協力：独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター・独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館



# 再発見! いたばしの遺跡

## —いたばしの旧石器時代・縄文時代—

### ごあいさつ

区内にはいつから人が住んでいたのでしょうか。この答えは文字も無い古い時代のことなので、昔の人が使った道具から考えていくしかありません。こうした歴史学の1つを考古学と呼んでいます。例えば石器や土器が1点でも自然に埋まった土の中から見つければ、人が生活していた立派な証拠になります。石器を顕微鏡で観察すると使用した痕跡から何に使った道具か分かり、土器に付いたおこげを分析すれば、何年前の土器で

何を調理したか分かるようになってきました。

このように、ただの“石ころ”や“やきものカケラ”も詳しく観察すれば、様々な情報を持っています。こうしたモノが持つ情報を積み上げ、昔の生活を復元していくことで、約4万年前にはいたばしに人が住んでいたことが分かってきました。

モノを観察する面白さを通じ、昔の人がどのような場所に住んだのか? どんな道具を使っていたのか? いたばしに人が来て生活していた様子を想像してはいかがでしょうか。

平成31年1月 板橋区立郷土資料館

### 旧石器時代

およそ4万年前の日本列島は、寒冷な気候で海面が100~130m低かったと言われていいます。このため、中国大陸・朝鮮半島と陸続きとなり、人が日本列島にやってきたと考えられています。現在の荒川部分は大きな崖となり、荒川沿いの台地上と河川の間には50m以上も高低差がありました。当時は石を打ち割って槍先をはじめとする道具をつくり、狩猟を中心とした生活をしていてと想定されています。家の跡が見つかる例は少なく、石器を作った際に生じる石のカケラやこぶし大の石を集めた痕跡から、人が道具を作り、調理をしていたと考えられています。また、黒曜石など区内では採れない石材を使い、道具を作っていました。区内最古とされる西台後藤田遺跡出土の石器や地層の剥ぎ取り断面を展示するとともに、石器が出土する関東ローム層について紹介します。



四葉地区遺跡J地区二 1号礫群



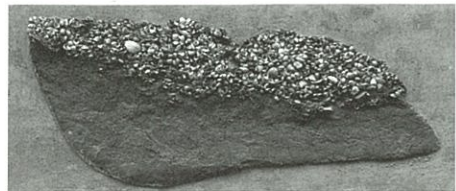
西台後藤田遺跡出土石器

大門遺跡出土石器

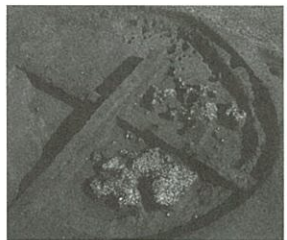
### 縄文時代

縄文時代の始まりは温暖化に向かう時期と重なり、縄文時代早期末~前期には現在よりも3mほど海面が高く縄文海進と呼ばれています。区内の北側半分は海となり、台地と低地の境目に沿って多くの貝塚が見つっています。貝塚では、貝以外にも土器や石器のほか獣や魚の骨が見つかり、当時の食生活が分かる資料の宝庫です。

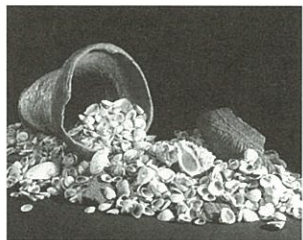
同時期には区内でも多くの遺跡があり、縄文時代早期撚糸文系の標識資料が出土した稲荷台遺跡や縄文時代前期の貝塚である四葉地区遺跡といった貝塚も見つっています。また、縄文時代後期以降になると、小豆沢貝塚や赤塚城址貝塚などで再び貝塚が作られるようになりました。両貝塚では製塩土器が出土していることが特徴ですが、当時は海退により海が近くに無いと推定され、なぜ製塩土器が見つかるのか大きな謎です。



四葉地区遺跡1号住居跡貝層剥ぎ取り断面



四葉地区遺跡1号住居跡貝層出土状況

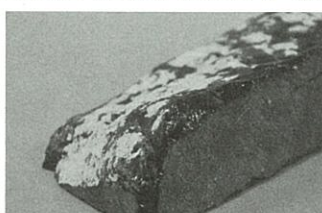


貝層形成過程のイメージ(四葉地区遺跡)

### 石器の石材

区内の遺跡では、多くの石器が作られました。旧石器時代から縄文時代を通じて、多く用いられた石材が黒曜石です。黒曜石は、区内で産出するものではなく、近隣では長野県八ヶ岳から霧ヶ峰や神奈川県箱根、伊豆七島の神津島で産出する黒曜石が用いられています。神津島は気温の低かった旧石器時代でも本州と陸で繋がるのが無かったため、日本列島に人がやってきた当初から、舟に乗るのが得意だったと考えられます。

また、黒曜石以外にも東北産の珪質頁岩を用いた遺跡も見られ、黒曜石以上に遠く離れた地域との交流あるいは移動があったと考えられます。区内で出土した黒曜石の産出地の資料と比較しながら、どのような石材を好んで使用していたのかを紹介します。



神津島(恩馳島)産出黒曜石 神津島村教育委員会所蔵

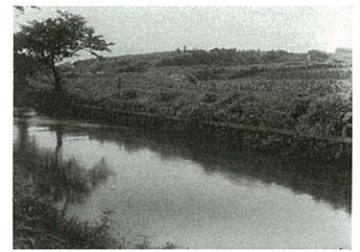


秋田県三種町採集珪質頁岩

### 借用資料紹介

#### ●明治大学博物館所蔵 茂呂遺跡出土石器

茂呂遺跡は、昭和24年(1949)に当時中学生だった滝沢浩氏が発見し、岩宿遺跡に次ぎ日本列島で2例目調査された旧石器時代の遺跡です。出土したナイフ形石器は、茂呂型ナイフ形石器の標識資料とされています。透明度の高い良質な黒曜石を使用し、二側縁加工という特徴的な作りを持っています。遺跡は都の史跡に指定されています。



茂呂遺跡調査写真



茂呂型ナイフ形石器

#### ●江戸東京たてもの園所蔵 茂呂遺跡出土ローム層標本・赤塚城址貝塚ほか出土土器

茂呂遺跡の調査では、明治大学のほか武蔵野郷土館(現、江戸東京たてもの園)の吉田格氏が携わり、調査の際に出土した石器をローム層ごと保存したものです。中台馬場崎貝塚A地点と赤塚城址貝塚出土資料は同氏による調査資料であり、赤塚城址貝塚の土偶は、上野新吾氏が収集し同館に寄贈した資料です。



茂呂遺跡 ローム層標本



小豆沢貝塚 土版



赤塚城址貝塚 注口土器



赤塚城址貝塚 土偶

#### ●立正大学博物館所蔵 赤塚城址貝塚出土土器ほか

赤塚城址貝塚は、昭和35年(1960)に滝沢浩氏と吉田格氏が調査したことが記録に残っています。リンゴ箱6箱分に及ぶ土器の破片が出土したとされ、縄文時代後期前葉の堀之内式土器が多く出土しました。



赤塚城址貝塚 二ホンイヌ牙玉



赤塚城址貝塚 堀之内式深鉢

#### ●東京国立博物館所蔵 小豆沢貝塚出土土器

昭和8年(1933)に始まった志村の土地区画整理事業では新たに道路を作り土地を整理することとなりました。この際に計画された道路上に古墳や貝塚があり、当時帝室博物館(現、東京国立博物館)の調査官であった後藤守一氏が調査を行い、資料は帝室博物館に収蔵されることとなりました。深鉢形土器の1つは縄文時代晩期初頭安行3a式の標識資料です。



小豆沢貝塚出土安行3a式深鉢

#### ●長和町教育委員会所蔵 星糞峠黒曜石原産地産の黒曜石原石

長野県長和町に所在する鷹山遺跡群は、縄文人による黒曜石採掘坑からなる遺跡群です。流紋岩質の火山灰が白色粘土化した中に黒曜石の原石が埋まっており、縄文人はその鉱脈をさがして地表面から3~5mもの採掘坑を掘りました。鷹山遺跡群の所在する星糞峠から虫倉山の一帯では、地表面に繰り返し黒曜石の採掘を行った際の窪みが見られます。



原石(単体)

#### ●明治大学黒曜石研究センター所蔵 黒曜石原産地原石

明治大学黒曜石研究センターは、黒曜石と人類史に係る研究施設として始まり、現在は多様な資源環境とヒトの関わりについて横断的な学問分野から研究を推進している機関です。同センターでは、日本各地の黒曜石原産地で採集したサンプル資料を所蔵しており、区内で出土が確認された原産地の原石を借用・展示します。



天城(柏峠)原石



男女倉(牧ヶ沢)原石



調訪(星ヶ塔)原石